

新変額
個人年金保険
無配当

リズナブル

REASONABLE

新変額個人年金保険(無配当)<特別勘定グループ(TG型)>

月次運用実績レポート

2013年2月

| 特別勘定の名称 | 主な運用対象の投資信託 | 投資信託の運用会社 |
|----------------|--|----------------------------|
| 日本株インデックス型(TG) | インデックスファンド225 | 日興アセットマネジメント株式会社 |
| 日本株アクティブ型(TG) | フィデリティ・日本成長株・ファンド VA3(適格機関投資家専用) | フィデリティ投信株式会社 |
| 世界株式型(TG) | アムンディ・世界好配当株式VA (適格機関投資家専用) | アムンディ・ジャパン株式会社 |
| 新興成長国株式型(TG) | JPM・BRICS5・ファンド (適格機関投資家転売制限付) | JPモルガン・アセット・マネジメント 株式会社 |
| 中国株式型(TG) | HSBCチャイナ ファンドVAⅡ号 (適格機関投資家専用) | HSBC投信株式会社 |
| 世界債券型(TG) | グローバル・ソブリン・オープンVA (適格機関投資家専用) | 国際投信投資顧問株式会社 |
| 海外リート型(TG) | ノムラ海外REIT インデックス・ ファンドVA(適格機関投資家専用) | 野村アセットマネジメント株式会社 |
| マネープール型(TG) | フィデリティ・マネー・プールVA (適格機関投資家専用) | フィデリティ投信株式会社 |

<引受保険会社>

<募集代理店>

株式会社 但馬銀行

 但馬銀行

 0120-164-230

たんぎん相談ダイヤル
受付時間 / 9:00~19:00
(土・日・祝日のほか、1月1日~3日、12月31日は除く)

 **アクサ生命保険株式会社**
redefining / standards

〒108-8020 東京都港区白金1-17-3
TEL 0120-833-399
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

特別勘定名称

日本株インデックス型(TG)

運用方針

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、日経平均株価に連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(04/09)を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 3年 | 設定来 |
|----------------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 日本株インデックス型(TG) | 3.49% | 21.29% | 29.80% | 18.53% | 14.29% | 2.10% |

特別勘定資産内訳

| | 構成比(%) |
|---------|--------|
| 現預金・その他 | 3.5% |
| 投資信託 | 96.5% |
| 合計 | 100.0% |

【参考】日本株インデックス型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

インデックスファンド225 (運用会社:日興アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

| | 1ヶ月 | 3ヶ月 | 6ヵ月 | 1年 | 3年 |
|---------------|-------|--------|--------|--------|--------|
| インデックスファンド225 | 3.77% | 22.44% | 31.75% | 20.80% | 19.17% |
| 日経225 | 3.78% | 22.37% | 30.76% | 18.88% | 14.15% |

※基準価額の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

<国内株式組入上位5業種>

| | 業種 | 比率 |
|---|--------|-------|
| 1 | 電気機器 | 17.5% |
| 2 | 小売業 | 11.4% |
| 3 | 情報・通信業 | 8.9% |
| 4 | 輸送用機器 | 7.8% |
| 5 | 医薬品 | 7.6% |

<資産構成比率>

| | |
|-------|-------|
| 株式 | 99.9% |
| うち先物 | 1.4% |
| 現金その他 | 1.5% |

※「資産構成比率」「株式組入上位10銘柄」の比率は純資産総額を、「株式組入上位5業種」の比率は組入株式の評価額の合計を、それぞれ100%として計算したものです。

※「資産構成比率」はマザーファンドの投資状況を反映した実質の組入比率です。

<国内株式組入上位10銘柄>(銘柄数 225銘柄)

| | 銘柄 | 業種 | 比率 |
|----|-------------|--------|-------|
| 1 | ファーストリテイリング | 小売業 | 8.76% |
| 2 | ファナック | 電気機器 | 4.93% |
| 3 | ソフトバンク | 情報・通信業 | 3.55% |
| 4 | 京セラ | 電気機器 | 2.78% |
| 5 | KDDI | 情報・通信業 | 2.40% |
| 6 | 本田技研工業 | 輸送用機器 | 2.38% |
| 7 | 信越化学工業 | 化学 | 1.96% |
| 8 | キヤノン | 電気機器 | 1.74% |
| 9 | アステラス製薬 | 医薬品 | 1.73% |
| 10 | 武田薬品工業 | 医薬品 | 1.65% |

※「株式組入上位5業種」「株式組入上位10銘柄」はマザーファンドの状況です。業種は東証33業種分類によるものです。

<運用コメント>

2月の国内株式市場は、日経平均株価が前月末比プラス3.78%と前月に続き上昇しました。

円安への修正が続くなか、外国人や個人の買い意欲が強まり、輸出関連株を中心に上昇して始まりました。月の半ばには、G20財務相・中央銀行総裁会議や日銀総裁人事案の国会提示などを控えて円安への修正が一服したことから、利益確定の売りに押される場面もありましたが、月末にかけては、金融緩和に積極的な日銀総裁候補への期待感などから上昇傾向を維持するなか、イタリアでの政局不安などを受け、変動の激しい展開となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

日本株アクティブ型(TG)

運用方針

国内の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、東証株価指数を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をも「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 3年 | 設定来 |
|---------------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 日本株アクティブ型(TG) | 2.55% | 21.07% | 28.17% | 15.15% | 10.06% | ▲9.70% |

特別勘定資産内訳

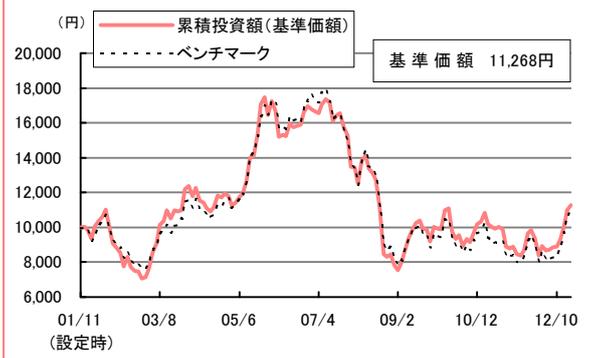
| | 構成比(%) |
|---------|--------|
| 現預金・その他 | 3.7% |
| 投資信託 | 96.3% |
| 合計 | 100.0% |

【参考】日本株アクティブ型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・日本成長株・ファンドVA3(適格機関投資家専用) (運用会社:フィデリティ投信株式会社)

- ①主として日本株を投資対象とします。
- ②個別企業分析により、成長企業を選定し、利益成長性等と比較して妥当と思われる株価水準で投資を行ないます。

設定来の運用実績 (2013年2月28日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。
※基準価額は運用管理費用控除後のものです。

<運用コメント>

2月の東京株式市場は、好悪材料に振られる展開ながら、総じて堅調に推移しました。円安進行に伴い企業業績の回復期待が高まる中、米欧マクロ経済指標の改善なども好感され、月初めの日本株は概ね好調に推移しました。月半ばの20カ国・地域(G20)財務相・中央銀行総裁会議を前に、一本調子の円安進行に対する警戒感が広がり、利食い売りに押される場面もありましたが、実際に発表された声明では急速な円安進行に関する日本への名指し批判が回避されたことから、日本株は持ち直しました。日銀の首脳人事報道を背景とする積極的な金融緩和への期待や、環太平洋経済連携協定(TPP)の交渉参加に向けた動きも、株価を押し上げました。月末には、イタリア総選挙の波乱の結果を受けて急速にユーロ安円高が進行、日本株は反落しましたが、地合の良さから米マクロ経済指標の相次ぐ上振れも加わって、最終日には値を戻しました。月間の騰落率は、TOPIX(配当金込)が+3.80%、日経平均株価は+3.78%となりました。

※上記コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース)

<資産別組入状況>

| | |
|---------------|-------|
| 株式 | 96.8% |
| 新株予約権証券(ワラント) | - |
| 投資信託・投資証券 | 0.5% |
| 現金・その他※ | 2.7% |

※「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」(2.5%)を含みます。

未払金等の発生により、「現金・その他」の数値が「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」の数値を下回ることがあります。

<市場別組入状況>

| | |
|--------|-------|
| 東証1部 | 90.0% |
| 東証2部 | 0.0% |
| ジャスダック | 0.9% |
| その他市場 | 6.4% |

<組入上位5業種>

| | |
|-------|-------|
| 輸送用機器 | 11.2% |
| 電気機器 | 11.0% |
| 銀行業 | 9.3% |
| 卸売業 | 8.9% |
| 機械 | 6.7% |

(対純資産総額比率)

※各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

| 商品概要 | |
|------|--------------------------|
| 形態 | 追加型投信/国内/株式 |
| 投資対象 | わが国の株式等 |
| 設定日 | 2001年11月29日 |
| 信託期間 | 原則無期限 |
| 決算日 | 原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日) |

累積リターン (2013年2月28日現在)

| | 直近1ヶ月 | 3ヶ月 | 6ヶ月 | 1年 | 3年 | 設定来 |
|--------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| ファンド | 2.73% | 21.88% | 29.50% | 16.78% | 14.09% | 12.68% |
| ベンチマーク | 3.80% | 25.03% | 34.89% | 19.52% | 16.66% | 10.12% |

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。
※ベンチマーク:TOPIX(配当金込)

| 過去5期分の収益分配金(1万円当たり/税込) | |
|------------------------|----|
| 第7期(2008.12.01) | 0円 |
| 第8期(2009.11.30) | 0円 |
| 第9期(2010.11.30) | 0円 |
| 第10期(2011.11.30) | 0円 |
| 第11期(2012.11.30) | 0円 |

純資産総額 757.8億円 (2013年2月28日現在)

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2013年1月31日現在)

| | 銘柄 | 業種 | 比率 |
|----|-------------------|--------|------|
| 1 | 三井住友フィナンシャルグループ | 銀行業 | 3.9% |
| 2 | ミスグループ本社 | 卸売業 | 3.7% |
| 3 | トヨタ自動車 | 輸送用機器 | 2.8% |
| 4 | オリックス | その他金融業 | 2.8% |
| 5 | 本田技研工業 | 輸送用機器 | 2.7% |
| 6 | マキタ | 機械 | 2.6% |
| 7 | 日産自動車 | 輸送用機器 | 2.5% |
| 8 | 三菱UFJフィナンシャル・グループ | 銀行業 | 2.3% |
| 9 | 東レ | 繊維製品 | 2.1% |
| 10 | 大和工業 | 鉄鋼 | 2.0% |

(組入銘柄数: 166) 上位10銘柄合計 27.5% (対純資産総額比率)

※「フィデリティ・円キャッシュ・ファンド(適格機関投資家専用)」は、組入上位10銘柄の対象から除いています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

世界株式型(TG)

運用方針

日本を含む世界各国の高い配当利回りが期待できる企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(100)として指数化したものです。
 ※世界株式型(TG)は2006年9月1日からの推移を示しております。

ユニット・プライスの騰落率

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 3年 | 設定来 |
|-----------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 世界株式型(TG) | 0.72% | 18.61% | 27.70% | 27.58% | 35.38% | ▲3.89% |

特別勘定資産内訳

| | 構成比(%) |
|---------|--------|
| 現預金・その他 | 3.8% |
| 投資信託 | 96.2% |
| 合計 | 100.0% |

【参考】世界株式型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

アムンディ・世界好配当株式VA(適格機関投資家専用)

(運用会社:アムンディ・ジャパン株式会社)

<基準価額の騰落率>(課税前分配金再投資換算基準価額)

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 3年 | 設定来 |
|-------------------------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|
| アムンディ・世界好配当株式VA | 0.85% | 19.49% | 29.28% | 30.06% | 41.82% | 5.40% |
| MSCI コクサイインデックス(円換算ベース) | 0.84% | 20.21% | 30.94% | 27.70% | 42.97% | 0.61% |
| 差異 | 0.01% | ▲0.73% | ▲1.66% | 2.36% | ▲1.15% | 4.79% |

※騰落率は、年率換算していません。騰落率は月次の収益率より算出しています。
 ※基準価額は信託報酬控除後のものです。
 ※「課税前分配金再投資換算基準価額」は、この投資信託の公表している基準価額に、各収益分配金をその分配を行う日に全額再投資したと仮定して算出したものであり、委託会社が公表している基準価額とは異なることがあります。
 ※MSCIコクサイインデックスは前月の指数値(米ドルベース・クロス配当再投資)を委託会社が当日の三菱東京UFJ銀行の対顧客電信売買相場値を用いて円換算したものを使用しております。

<純資産構成比率>

| | |
|-----------|-------|
| 株式合計 | 99.2% |
| 現金+現先+その他 | 0.8% |
| 合計 | 100% |

※比率はマザーファンドの内容です。

<組入地域配分比率>

| 地域 | ウェイト |
|-----------|-------|
| 北米 | 25.7% |
| ユーロ圏 | 23.9% |
| その他欧州 | 24.4% |
| アジア・オセアニア | 25.2% |

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比率です。

<株式組入上位10銘柄>

(組入銘柄数: 90)

| 順位 | 銘柄 | ウェイト | 配当利回り | 業種 | 国 |
|----|---------------------|------|-------|-------|---------|
| 1 | ウェストバック銀行 | 3.3% | 5.6% | 金融 | オーストラリア |
| 2 | オーストラリア&ニューゼaland銀行 | 3.2% | 5.3% | 金融 | オーストラリア |
| 3 | サノフィ | 2.2% | 3.8% | ヘルスケア | フランス |
| 4 | グラクソ・スミスクライン | 2.1% | 5.5% | ヘルスケア | 英国 |
| 5 | ファイザー製薬 | 2.1% | 3.6% | ヘルスケア | 米国 |
| 6 | アルトリア・グループ | 2.1% | 5.4% | 生活必需品 | 米国 |
| 7 | エニ | 2.0% | 6.2% | その他 | イタリア |
| 8 | メルク | 2.0% | 4.1% | ヘルスケア | 米国 |
| 9 | プリストル・マイヤーズ・スクイブ | 1.8% | 3.8% | ヘルスケア | 米国 |
| 10 | ミュンヘン再保険 | 1.8% | 5.1% | 金融 | ドイツ |

※ウェイトは、マザーファンドの純資産総額に対する割合を表示しています。また、業種分類は、委託会社が独自に定めた分類方法で表示しております。
 ※配当利回りは、ブルームバーグのデータを基に委託会社が各銘柄の当会計年度の予想DPSを基準日の株価で割って算出しております。

<組入業種配分比率>

| 業種 | ウェイト |
|----------|-------|
| 公益 | 23.6% |
| 生活必需品 | 18.0% |
| ヘルスケア | 18.7% |
| 金融 | 20.8% |
| 電気通信サービス | 8.9% |
| その他 | 9.3% |

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比率です。

<株式組入上位5業種>

| 順位 | 業種 | ウェイト |
|----|------------------------|-------|
| 1 | 公益事業 | 23.6% |
| 2 | 医薬品・バイオテクノロジー・ライフサイエンス | 16.3% |
| 3 | 銀行 | 13.9% |
| 4 | 食品・飲料・タバコ | 12.4% |
| 5 | 電気通信サービス | 8.9% |

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比率です。

<運用コメント>

<投資環境と運用状況>

アメリカの景気指標は成長の勢いが徐々に強まっていることを示すものとなりました。わが国でも機械受注など先行性の強い指標が改善しました。ユーロ圏景気は依然低迷しています。為替市場では昨年来の円全面安傾向が中旬以降一服、信用格付が引き下げられた英ポンドや政治不安のユーロが反落しました。前月末ドル91円台であった米ドルは94円台まで続伸した後、92円台で月末を迎えました。世界株式は景気指標の改善や大型買収のニュースを好感して中旬過ぎまで続伸しました。しかし、南欧の政治不安を反映して1月よりも株価の足取りは重く、アメリカの量的緩和からの撤退時期が従来の想定より早まるとの憶測などから下旬には下落となりました。24日に行われたイタリアの総選挙が明瞭な結果とならなかったことも月末にかけて世界的な波乱要因となり、月間の現地通貨ベースの指数上昇率は1%に満たないものとなりました。地域別にはアジア・オセアニアが2%近く上昇、北米とその他欧州もプラスで月末を迎えましたが、9%下落したイタリアが足かせとなりユーロ圏は2%台の下落でした。業種別では、生活必需品が3%近い上昇、資本財とヘルスケアがこれに続きまして、金融、情報技術、一般消費財、公益も小幅ながら上昇しましたが、通信はわずかに下落、商品市況の下落でエネルギーと素材はともに1%台の下落でした。

<今後の運用方針>

ユーロ圏は全体としては10-12月期が景気の底になると見られますが、回復への動きは参加国間で差が大きい状態が続くようです。一方、アメリカでは給付税減税の終了や3月からの歳出の自動削減措置が景気に逆風となるものの影響は限定的と見られ、不動産価格の底打ちなど資産効果と企業部門の強さから今後も緩やかな景気回復基調が続くと見込まれます。株価水準は、こうした見通しを先行して織り込んでおり、上昇が加速するほどの割安感はないものの、金利水準と比較して魅力的な配当収入を享受しつつ、緩やかな景気成長軌道を反映する形で水準訂正が徐々に進展するものと考えています。当ファンドは、予想配当利回りが高く、また、循環的要因によらない質の高い利益成長を持続できる銘柄を中心としたポートフォリオ運用によって、安定的な収益源を確保します。業種配分においては、高水準かつ比較的安定した配当支払いが見込める公益、ヘルスケア、生活必需品、金融といった業種中心のポートフォリオを維持し、地域別には4地域への均等配分を為替変動リスクを分散します。当ファンドの組入銘柄の多くは、高水準の配当を持続していることが評価されると見込んでいますが、増配を上回るペースで株価が上昇してきた一部の銘柄では、予想配当利回りがかなり低下しており、より割安な銘柄への入替えを検討しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

新興成長国株式型(TG)

運用方針

新興成長国の企業の株式を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(2006年9月1日)を「100」として指数化したものです。
 ※新興成長国株式型(TG)は2006年9月1日からの推移を示しております。

ユニット・プライスの騰落率

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 3年 | 設定来 |
|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 新興成長国株式型(TG) | ▲2.03% | 15.82% | 29.28% | 11.32% | 24.50% | 38.13% |

特別勘定資産内訳

| | 構成比(%) |
|---------|--------|
| 現預金・その他 | 2.9% |
| 投資信託 | 97.1% |
| 合計 | 100.0% |

【参考】新興成長国株式型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

JPM・BRICS5・ファンド(適格機関投資家転売制限付)

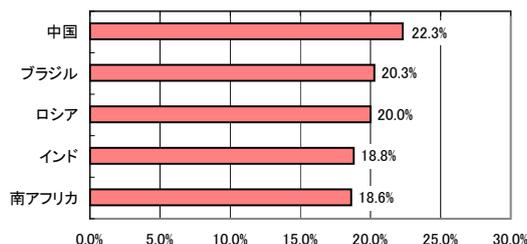
(運用会社:JPモルガン・アセット・マネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

| | 1ヶ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 3年 | 設定来 |
|-----------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| JPM・BRICS5・ファンド | ▲2.0% | 16.5% | 30.7% | 12.9% | 28.9% | 72.3% |

※騰落率については、基準価額に税引前分配金を再投資して計算しております。
 ※騰落率は実際の投資家利回りとは異なります。
 ※ファンド設定日は2006年5月26日です。

<国別構成比率>



※マザーファンド・ベース
 ※比率は組入価証券を100%として計算しております。
 ※国別については、MSCI分類に基づき分類していますが、委託会社の判断に基づき分類したものが一部含まれます。
 ※中国の構成比率にはMSCI分類における香港を含みます。

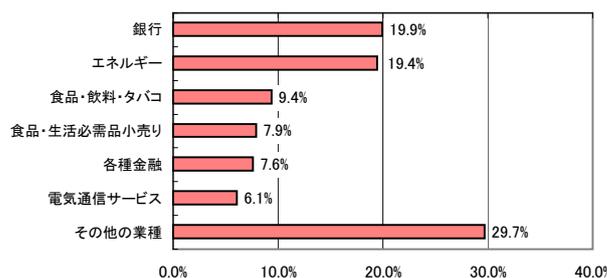
<株式組入上位10銘柄>

(銘柄数 52銘柄)

| 順位 | 銘柄 | 国 | 業種 | 比率 |
|----|------------------|-------|-------------|-------|
| 1 | ルクオイル(ADR) | ロシア | エネルギー | 5.86% |
| 2 | ズベルバンク | ロシア | 銀行 | 3.66% |
| 3 | マグニト(GDR) | ロシア | 食品・生活必需品小売り | 3.09% |
| 4 | HDFC | インド | 銀行 | 3.07% |
| 5 | 中国建設銀行 | 中国 | 銀行 | 2.98% |
| 6 | 招商銀行 | 中国 | 銀行 | 2.72% |
| 7 | コタック・マヒンドラ銀行 | インド | 各種金融 | 2.60% |
| 8 | マヒンドラ・マヒンドラ | インド | 自動車・自動車部品 | 2.59% |
| 9 | 中国海洋石油 | 中国 | エネルギー | 2.48% |
| 10 | ショップライト・ホールディングス | 南アフリカ | 食品・生活必需品小売り | 2.47% |

※マザーファンド・ベース (2013年1月31日現在)
 ※組入上位10銘柄については、開示基準日がその他の情報と異なります。
 ※比率は対純資産で計算しています。
 ※国、業種については、MSCI24分類に基づき分類していますが、委託会社の判断に基づき分類したものが一部含まれます。

<業種別構成比率>



※マザーファンド・ベース
 ※比率は組入価証券を100%として計算しております。
 ※業種については、MSCI24分類に基づき分類していますが、委託会社の判断に基づき分類したものが一部含まれます。

<運用コメント>

市場概況

当月のBRICS5カ国を含む新興国株式市場は下落しました。米国の金融緩和の早期解除への懸念やイタリア総選挙を受けた政局混迷等を背景に、軟調な動きとなりました。月末は、FRB(米連邦準備制度理事会)議長が量的緩和を擁護する姿勢を示したほか、イタリア国債入札が好調となったことが好感され上昇したものの、月間では下落となりました。

BRICS5カ国の国別では、全ての国で下落しました。

運用状況

- ・当ファンドの月末基準価額は14,611円、前月末比-2.0%となりました。
- ・当月は為替要因はプラスとなったものの、株価要因はマイナスとなりました。
- ・組入価証券に対する国別の投資比率は、中国、ブラジル、ロシアが20%を上回る比率となりました。一方で南アフリカ、インドは20%を下回る比率となりました。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載しておりますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

中国株式型(TG)

運用方針

中国の証券取引所に上場されている企業の株式や中国経済の発展と成長に係わる企業の株式等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、中長期的な成長を目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 3年 | 設定来 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|-------|--------|
| 中国株式型(TG) | ▲5.65% | 15.31% | 37.48% | 14.80% | 4.20% | 69.14% |

特別勘定資産内訳

| | 構成比(%) |
|---------|--------|
| 現預金・その他 | 3.5% |
| 投資信託 | 96.5% |
| 合計 | 100.0% |

【参考】中国株式型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

HSBCチャイナファンドVAⅡ号(適格機関投資家専用)

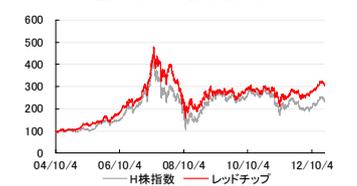
(運用会社:HSBC投信株式会社)

HSBC チャイナファンドVAⅡ 基準価額の推移 (設定来)
2004年10月4日～2013年2月28日

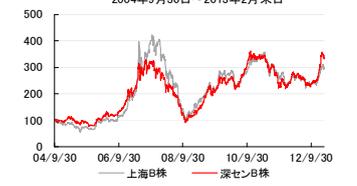


※基準価額は信託報酬控除後のものです。

H株とレッドチップの推移 (2004年10月4日を100として指数化)
2004年10月4日～2013年2月28日



上海B株と深センB株の推移 (2004年9月30日を100として指数化)
2004年9月30日～2013年2月28日



※設定日の2004年10月4日は中国本土市場では国慶節の休場日であったことから前営業日の2004年9月30日を100として指数化しています。

為替の推移 (香港ドル/円)
2004年10月4日～2013年2月28日

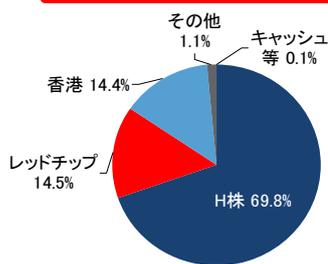


出所:為替レートは投資信託協会、株価指数はブルームバーグ

業種別組入れ比率

| 業種名称 | 比率 |
|-------------|-------|
| 銀行 | 33.0% |
| エネルギー | 16.4% |
| 不動産 | 10.0% |
| 資本財 | 8.8% |
| 保険 | 7.1% |
| 自動車・自動車部品 | 6.7% |
| 素材 | 5.5% |
| 消費者サービス | 4.4% |
| ソフトウェア・サービス | 3.0% |
| 公益事業 | 2.9% |
| 運輸 | 2.0% |
| その他 | 0.0% |
| キャッシュ等 | 0.1% |
| 合計 | 100% |

市場別組入れ比率



※親信託財産の構成(対純資産総額)

<運用コメント>

【2月の株式市場:総じて軟調】

中国株式市場は、香港市場ではH株指数が前月末比-5.7%、レッドチップ指数が同-2.3%となりました。上旬は、春節(旧正月)連休(香港市場は11~13日が休場、本土市場は11~15日が休場)を前にした利益確定売りが優勢となりました。連休明け後の中旬以降も、政府が不動産市場過熱抑制策を強化する方針を示したことが相場の重しとなりました。香港市場では、米連邦公開市場委員会(FOMC)の議事録が発表され、量的緩和(QE)の縮小/早期終了の可能性に言及した委員が複数いたことが判明したため、資本流入が細るとの思惑が浮上したことも下げ要因となりました。しかし、その後、バーナンキ米連邦準備制度理事会(FRB)議長の議会証言で、QEの継続が確認されたこともあり、株価は月末にかけてやや戻しました。セクター別では、一般消費財、資本財、金融などの景気循環株が低調であった一方、ヘルスケア、通信、生活必需品、公益などのディフェンシブ株のパフォーマンスは相対的に良好でした。

【運用状況:基準価額の騰落率は-5.8%】

基準価額の騰落率は-5.8%と、参考指標のMSCIチャイナ10/40の-5.3%(円ベース)を下回りました。セクター別では一般消費財、金融をオーバーウェイトとし、通信をアンダーウェイトとしたことがマイナス寄与しました。個別銘柄では組み入れ上位銘柄である、美高梅中国(MGM China Holdings)、宏華集団(Honghua Group)などの上昇がプラス要因となった一方、中国農業銀行(Agricultural Bank of China)、中国建材(China National Building Material)などの下落がマイナス要因となりました。一方、香港ドルが対円で上昇したことはプラス要因でした。

【2013年の中国経済:金融政策は緩和とバイアスから中立ポジションへ】

第12期全国人民代表大会(全人代、日本の国会に相当)が3月5日、開幕しました。温家宝首相は、2013年の実質国内総生産(GDP)成長率の目標を昨年と同じ+7.5%前後に据え置く一方、インフレ率目標を+4.0%前後から+3.5%前後に、通貨供給量(M2)の伸び率の目標を+14%前後から+13%前後に引き下げたと発表しました。但し、上記の数字は努力目標であり、拘束力がないことから、当局は成長下振れやインフレリスクに対処する上で、政策面での一定の自由度があります。リスクが成長下振れからインフレ上昇へと変化していることを踏まえると、金融政策のスタンスは既に緩和とバイアスから中立ポジションに移行したものと、当社では見えています。

【投資戦略:ヘルスケア、環境関連に注目】

当面は、習近平・李克強の新体制が発表する政策に投資家の関心が集まることが予想されます。当局は環境保護に注力すると見られ、セクター別では、ヘルスケアや環境関連が財政面からの支援による恩恵を受けると考えられます。尚、不動産については、3月1日に発表された政府による新たな不動産市場過熱抑制策が、当面の株価の重しとなることが予想されるものの、今回発表された内容は、従来からの引き締め策の厳格な適用が中心であることから、実需取引への影響は限定的と見えています。従って、今後も同セクターを若干オーバーウェイトとし、押し目買いを行いたいと考えています。中国株式はバリュエーション面からは引き続き歴史的な低水準にあると考えます。2012年本決算発表を受け、アナリストによる2013年の企業利益見通しの上方修正が行われる可能性があることを踏まえると、割安感はさらに強まるものと見られます。従って、当社では中国株式に対する中長期的な強気見直しを堅持しています。

※ 将来の市場環境の変動等により、当該運用方針が変更される場合があります。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

世界債券型(TG)

運用方針

日本を含む世界各国の公社債を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、シティグループ世界国債インデックス(含む日本/円ベース)を中長期的に上回る投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(04/09)を「100」として指数化したものです。

ユニット・プライスの騰落率

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 3年 | 設定来 |
|-----------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 世界債券型(TG) | 0.42% | 10.38% | 16.15% | 13.79% | 11.21% | 9.40% |

特別勘定資産内訳

| | 構成比(%) |
|---------|--------|
| 現預金・その他 | 3.1% |
| 投資信託 | 96.9% |
| 合計 | 100.0% |

【参考】世界債券型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

グローバル・ソブリン・オープンVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:国際投信投資顧問株式会社)

<基準価額の騰落率> (課税前前分配金再投資換算基準価額)

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 3年 | 設定来 |
|-------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| グローバル・ソブリン・オープンVA | 0.5% | 10.9% | 17.2% | 15.5% | 15.6% | 36.8% |
| シティグループ世界国債インデックス | ▲0.4% | 7.9% | 13.8% | 12.2% | 14.6% | 38.4% |
| 差異 | 0.9% | 3.0% | 3.3% | 3.3% | 1.1% | ▲1.6% |

<純資産構成比率>

| | |
|-----------|--------|
| 債券合計 | 95.7% |
| 現金+現先+その他 | 4.3% |
| 合計 | 100.0% |

※騰落率は、年率換算していません。騰落率は月次の収益率より算出しています。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。

※「課税前前分配金再投資換算基準価額」は、この投資信託の公表している基準価額に、各収益分配金(課税前)をその分配を行う日に全額再投資したと仮定して算出したものであり、委託会社が公表している基準価額とは異なります。

※ベンチマークは基準価額との関連を考慮して、前営業日の値を用いています。

※シティグループ世界国債インデックスは、シティグループ・グローバル・マーケット・インクの開発したものです。

<債券組入上位10銘柄>

| 銘柄 | ウェイト | 通貨 | 残存年数 |
|-----------------|------|------------|------|
| (1) カナダ国債 | 4.2% | カナダドル | 16.3 |
| (2) フランス国債 | 4.1% | ユーロ | 6.7 |
| (3) 欧州投資銀行(EIB) | 2.9% | 豪ドル | 6.4 |
| (4) アメリカ国債 | 2.7% | USドル | 7.5 |
| (5) カナダ国債 | 2.6% | カナダドル | 20.3 |
| (6) ベルギー国債 | 2.0% | ユーロ | 6.6 |
| (7) アメリカ国債 | 1.9% | USドル | 8.2 |
| (8) ニューゼaland国債 | 1.7% | ニュージーランドドル | 8.2 |
| (9) 欧州連合(EU) | 1.6% | ユーロ | 13.5 |
| (10) カナダ国債 | 1.5% | カナダドル | 6.3 |

※ウェイトはマザーファンドの対純資産総額比率です。

<組入通貨配分比率>

| 通貨 | ウェイト |
|------|-------|
| USドル | 22.8% |
| ユーロ | 18.0% |
| 英ポンド | 0.6% |
| 日本円 | 3.9% |
| その他 | 54.7% |

<運用コメント>

<投資環境と運用状況>

2月の債券市場では、イタリア総選挙で反緊縮派が躍進したことを受けて、欧州の財政再建路線の後退に対する懸念が強まったことから、安全資産とされる米国債やドイツ国債の利回りが低下しました。為替市場では、イタリア総選挙に対する政治の不透明感などから、ユーロなどの欧州通貨が米ドルや円に対して下落しました。当ファンドは、デュレーションについてはベンチマークに対してやや短めとしました。国別配分については、オーストラリア、カナダ、ノルウェー、スウェーデン、ポーランド、メキシコをオーバーウエイトとし、米国、ユーロ圏、日本をアンダーウエイトとしています。

<今後の運用方針>

デュレーションについては、欧州と比較して景気回復が先行するとみている米国圏で短期化を図る一方、欧州ではベンチマークに対して長めを維持する方針です。国別配分については、欧州債務問題への懸念が後退する中で、欧米の中央銀行が緩和的な金融政策を継続していることなどから、米ドルやユーロ、円などに対して相対的にファンダメンタルズが良好な豪ドルやカナダドル、北欧通貨や成長力が高いメキシコ・ペソ、ポーランド・ズロチなどが上昇するとみえており、これらの通貨のオーバーウエイトを継続する方針です。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。

※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

特別勘定名称

海外リート型(TG)

運用方針

日本を除く世界各国の上場不動産投信(REIT=Real Estate Investment Trust)を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円換算ベース)に連動した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



ユニット・プライスの騰落率

| | 1カ月 | 3カ月 | 6カ月 | 1年 | 3年 | 設定来 |
|------------|-------|--------|--------|--------|--------|---------|
| 海外リート型(TG) | 1.60% | 19.65% | 25.22% | 33.12% | 58.62% | ▲15.59% |

特別勘定資産内訳

| | 構成比(%) |
|---------|--------|
| 現預金・その他 | 3.0% |
| 投資信託 | 97.0% |
| 合計 | 100.0% |

※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点をもとに「100」として指数化したものです。
 ※海外リート型(TG)は2006年9月1日からの推移を示しております。

【参考】 海外リート型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

ムラ海外REITインデックス・ファンドVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:野村アセットマネジメント株式会社)

<基準価額の騰落率>

| | 1カ月 | 3カ月 | 6カ月 | 1年 | 設定来 |
|----------------------|------|-------|-------|-------|-------|
| ムラ海外REITインデックスファンドVA | 1.7% | 20.6% | 26.8% | 36.0% | ▲7.8% |
| ベンチマーク | 1.7% | 20.8% | 27.1% | 37.1% | ▲3.1% |

「S&P先進国REIT指数(除く日本)」はスタンダード&プアーズファイナンシャル サービスズ エル エル シーの所有する登録商標であり、野村アセットマネジメントに対して利用許諾が与えられています。スタンダード&プアーズは本商品を推奨・支持・販売・促進等するものではなく、また本商品に対する投資適格性等に関しかなる意思表示等を行なうものではありません。

※収益率の各計算期間は、作成基準日から過去に遡った期間としております。
 ※ベンチマークである、S&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、円換算ベース)はS&P先進国REIT指数(除く日本、配当込み、ドルベース)を委託会社において円換算したものです。

<資産別配分比率>

| 資産種別 | 純資産比 |
|-----------|--------|
| REIT(リート) | 99.2% |
| その他の資産 | 0.8% |
| 合計(※) | 100.0% |

※先物の建て玉のある場合は、合計欄を表示していません。
 ※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。

<実質通貨配分>

| 通貨 | 純資産比 |
|----------|-------|
| 日本・円 | 0.4% |
| 外貨計 | 99.6% |
| アメリカ・ドル | 65.7% |
| ユーロ | 6.9% |
| イギリス・ポンド | 5.4% |
| その他の外貨 | 21.7% |

※実質通貨配分は為替予約等を含めた実質的な比率をいいます。

<国・地域別配分>

| 国・地域 | 純資産比 |
|----------|--------|
| アメリカ | 65.8% |
| オーストラリア | 11.9% |
| イギリス | 5.4% |
| フランス | 4.9% |
| シンガポール | 4.1% |
| その他の国・地域 | 7.8% |
| 合計 | 100.0% |

<組入上位10銘柄>

| | 銘柄 | 国・地域 | 純資産比 |
|----|--------------------------|---------|------|
| 1 | SIMON PROPERTY GROUP INC | アメリカ | 6.8% |
| 2 | WESTFIELD GROUP | オーストラリア | 3.2% |
| 3 | HCP INC | アメリカ | 3.0% |
| 4 | PUBLIC STORAGE | アメリカ | 3.0% |
| 5 | VENTAS INC | アメリカ | 2.8% |
| 6 | UNIBAIL RODAMCO SE | フランス | 2.8% |
| 7 | EQUITY RESIDENTIAL | アメリカ | 2.5% |
| 8 | PROLOGIS INC | アメリカ | 2.4% |
| 9 | HEALTH CARE REIT INC | アメリカ | 2.3% |
| 10 | BOSTON PROPERTIES | アメリカ | 2.1% |

※純資産比は、マザーファンドの純資産比と当ファンドが保有するマザーファンド比率から算出しております。
 ※国・地域は原則発行国・地域で区分しております。

<市場コメント>

●堅調な米住宅関連指標などを背景に、外国リート市場は概ね上昇しました。イタリア政局の不透明感から、欧州債務問題再燃の懸念が高まったことなどを背景に、ユーロは対円で下落(円高)した一方で、米国の景気回復期待などを背景に、米ドルは対円で上昇(円安)しました。

(野村アセットマネジメント作成)

<純資産総額>

純資産総額 23.1 億円

<組入銘柄数>

組入銘柄数 240 銘柄

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
 ※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載しておりますので必ずご参照ください。

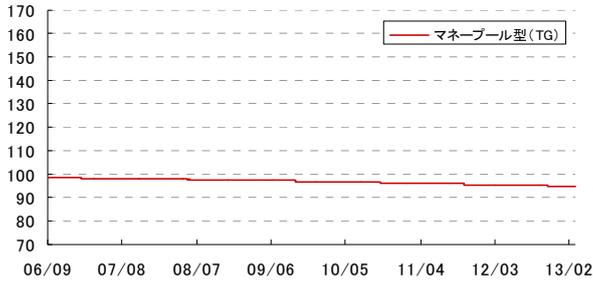
特別勘定名称

マネープール型(TG)

運用方針

他の特別勘定で運用している資金の一時退避を目的とし、国内の公社債および短期金融商品等を主な投資対象とする投資信託に主に投資することにより、安定した投資成果をあげることを目指します。

ユニット・プライスの推移



※ユニット・プライスとは特別勘定資産の1ユニット(1口)に対する価格のことで、特別勘定の運用を開始した時点(「100」として指数化した)を指します。

ユニット・プライスの騰落率

| | 1ヵ月 | 3ヵ月 | 6ヵ月 | 1年 | 3年 | 設定来 |
|-------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| マネープール型(TG) | ▲0.05% | ▲0.16% | ▲0.33% | ▲0.67% | ▲2.01% | ▲5.22% |

特別勘定資産内訳

| | 構成比(%) |
|---------|--------|
| 現預金・その他 | 12.0% |
| 投資信託 | 88.0% |
| 合計 | 100.0% |

【参考】マネープール型(TG)の主な投資対象である投資信託の運用状況を掲載

フィデリティ・マネー・プールVA(適格機関投資家専用)

(運用会社:フィデリティ投信株式会社)

◆本邦通貨表示の公社債等を
主要な投資対象とし、安定した収益の確保を
図ることを目的として運用を行います。

設定来の運用実績 (2013年2月28日現在)



※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの
収益分配金を再投資した実績評価額です。
ただし、購入時手数料および収益分配金にかかる税金は考慮していません。
※当ファンドは、ベンチマークを設定していません。
※基準価額は運用管理費用控除後のものです。
※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

| 商品概要 | |
|------|--------------------------|
| 形態 | 追加型投信/国内/債券 |
| 投資対象 | 本邦通貨表示の公社債等 |
| 設定日 | 2002年9月20日 |
| 信託期間 | 原則無期限 |
| 決算日 | 原則、毎年11月30日(休業日のときは翌営業日) |

累積リターン (2013年2月28日現在)

| | 1ヶ月 | 3ヶ月 | 6ヶ月 | 1年 | 3年 | 設定来 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| ファンド | 0.01% | 0.03% | 0.05% | 0.09% | 0.27% | 1.27% |

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。

過去5期分の収益分配金(1万円当たり/税込)

| | |
|------------------|----|
| 第7期(2008.12.01) | 0円 |
| 第8期(2009.11.30) | 0円 |
| 第9期(2010.11.30) | 0円 |
| 第10期(2011.11.30) | 0円 |
| 第11期(2012.11.30) | 0円 |

純資産総額 131.8 億円 (2013年2月28日現在)

ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース) (2013年1月31日現在)

<資産別組入状況>

| | |
|--------|-------|
| 債券 | 92.8% |
| CP | - |
| CD | - |
| 現金・その他 | 7.2% |

<組入資産格付内訳>

| | |
|---------|-------|
| AAA/Aaa | - |
| AA/Aa | 92.8% |
| A | - |
| 現金・その他 | 7.2% |

平均残存日数 38.47日

平均残存年数 0.11年 (対純資産総額比率)

格付は、S&P社もしくはムーディーズ社による格付を採用し、S&P社の格付を優先して採用しています。「プラス/マイナス」の符号は省略しています。なお、両社による格付のない場合は、「格付なし」に分類しています。

組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース) (2013年1月31日現在)

| | 銘柄 | 種類 | 格付 | 比率 |
|----|-------------------------|----|-------|-------|
| 1 | 第323回 国庫短期証券 2013/02/18 | 債券 | AA/Aa | 12.4% |
| 2 | 第327回 国庫短期証券 2013/03/04 | 債券 | AA/Aa | 12.4% |
| 3 | 第328回 国庫短期証券 2013/03/11 | 債券 | AA/Aa | 12.4% |
| 4 | 第320回 国庫短期証券 2013/02/04 | 債券 | AA/Aa | 9.3% |
| 5 | 第324回 国庫短期証券 2013/02/25 | 債券 | AA/Aa | 9.3% |
| 6 | 第330回 国庫短期証券 2013/03/18 | 債券 | AA/Aa | 9.3% |
| 7 | 第332回 国庫短期証券 2013/03/25 | 債券 | AA/Aa | 6.2% |
| 8 | 第336回 国庫短期証券 2013/04/15 | 債券 | AA/Aa | 6.2% |
| 9 | 第339回 国庫短期証券 2013/04/22 | 債券 | AA/Aa | 6.2% |
| 10 | 第321回 国庫短期証券 2013/02/12 | 債券 | AA/Aa | 3.1% |

(組入銘柄数: 12) 上位10銘柄合計 86.6% (対純資産総額比率)

* 各々のグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

※当資料に記載されている事項は、現時点または過去の実績を示したものであり、将来の投資成果を保証するものではありません。
※その他、当資料に関する「ご留意いただきたい事項」を9/9ページに掲載していますので必ずご参照ください。

ご注意いただきたい事項

▲ 投資リスクについて

この保険の据置（運用）期間中の運用は特別勘定で行なわれます。特別勘定資産の運用実績に基づいて年金額、死亡給付金額および解約払戻金額等が変動（増減）します。特別勘定資産の運用は、株式および公社債等の価格変動と為替変動等に伴う投資リスクがあり、運用実績によってはお受け取りになる年金額や解約払戻金額の合計額が一時払保険料を下回ることがあります。これらのリスクはすべてご契約者に帰属します。

▲ 元本欠損が生じる場合があります

解約の時期、被保険者の契約年齢等の諸条件により、ご契約者等が受け取る金額の合計額が、お払込保険料の合計額を下回る場合もあります。保険会社の業務または財産の状況の変化により、年金額、死亡給付金額、解約払戻金額等が削減されることがあります。

▲ 諸費用について

| | |
|---|---|
| 契約初期費 | 一時払保険料に対して 5.0% を特別勘定繰入前に控除します。 |
| 保険関係費 | 特別勘定の資産総額に対して (年率0.75%+運用実績に応じた費用(※))/365日 を毎日控除します。 ※ 運用実績に応じた費用:運用実績を毎日判定し、運用実績が 年率1.5%を超過 した場合のみ、 超過分1%あたり0.1%(上限1.25%) を控除します。 |
| 移転費 | 積立金の移転が年間13回以上のとき、 移転一回につき1,000円 を、保険会社が移転を受け付けた日末に積立金から控除します。 |
| 年金管理費 | 年金支払開始日以後、支払年金額の 1% を年金支払日に控除します。 |
| 資産運用関係費 | 日本株インデックス型(TG) 年率0.546%程度 |
| | 日本株アクティブ型(TG) 年率0.924%程度 |
| | 世界株式型(TG) 年率0.8085%程度 |
| | 新興成長国株式型(TG) 年率1.155%程度 |
| | 中国株式型(TG) 年率1.176%程度 |
| | 世界債券型(TG) 年率0.8925%程度 |
| | 海外リート型(TG) 年率0.42%程度 |
| マネープール型(TG) 年率0.008925%~0.525%程度 | |

資産運用関係費は将来変更されることがあります。

その他お客さまにご負担いただく手数料には、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料および消費税等の税金がかかりますが、費用の発生前に金額や割合を確定することが困難なため表示することができません。また、これらの費用は各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの費用を間接的に負担することとなります。

その他ご注意いただきたい事項

- 当資料は、特別勘定の主な投資対象である投資信託の勧誘を目的としたものではありません。
- 新変額個人年金保険「リズナブル」は、生命保険商品であり投資信託ではありません。また、ご契約者様が直接投資信託を保有されている訳ではありません。
- 新変額個人年金には複数の特別勘定グループが設定されており、「リズナブル」には「特別勘定グループ(TG型)」が設定されています。保険料繰り入れおよび積立金の移転は「特別勘定グループ(TG型)」に属する特別勘定に限定されます。「特別勘定グループ(TG型)」以外の特別勘定グループに属する特別勘定への保険料の繰り入れおよび積立金の移転はできません。
- 特別勘定および特別勘定の主な運用対象となる投資信託の内容が変更されることがあります。
- 特別勘定資産の運用実績は、特別勘定が主な投資対象とする投資信託の運用実績とは異なり、一致するものではありません。これは、特別勘定は投資信託のほかに、保険契約の異動等に備えて一定の現預金等を保有していることや、積立金の計算にあたり投資信託の値動きには反映されていない保険にかかる費用等を特別勘定資産から控除していることなどによるものです。
- ユニット・プライスとは、特別勘定の運用実績を把握するための便宜上の参考値で、各特別勘定の運用開始時の値を「100」として指数化したものです。

新変額個人年金保険(無配当)「リズナブル」は現在販売していません。